

## 第3期庄原市長期総合計画調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和8年1月7日(水) 第1委員会室
2. 出席議員 福山権二委員長 横路政之副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 近藤久子 五島誠 吉川遂也 國利知史 松本みのり 前田智永 岡野茂 宇山茂之 堀井慎一郎 桜田亮太 堀内富夫 木山義仁 青山学 松森潤平
3. 欠席議員 なし
4. 事務局職員 島田虎往議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長  
植木佳那子議会事務局主事
5. 説明員 足羽幸宏企画振興部長 田部伸宏企画課長  
安藤秀明企画課企画調整係長 山上翔大企画課企画調整係主任主事
6. 傍聴者 1名(うち議員1名)
7. 会議に付した事件  
1 第3期庄原市長期総合計画について

-----  
午前9時58分 開 会

- 福山権二委員長 それでは、ただいまから第3回の第3期庄原市長期総合計画調査特別委員会を始めます。傍聴、録音、撮影、全て許可しております。今日の会議に松森委員から欠席届が出ております。

### 1 第3期庄原市長期総合計画について

- 福山権二委員長 それでは早速議題に入ります。前回の会議の中で委員から質問がありましたが、執行者から追加説明がありますか。
- 田部伸宏企画課長 前回の会議で1点、近藤委員から御質問いただいたことについて少し説明をさせていただきます。議員からは人口の動態ということで、女性の人口減少について特に今、国も若い女性の動向について、しっかり捉えていく必要があるという記述もあると。そうした考え方が今回の第3期長期総合計画へきちんと反映されているのかどうかと。どういった数値に基づいて、そうした考え方を持っているのかという御質問があったと認識しております。我々もその部分については過去の人口動態等も踏まえて整理をしております。追加のデータ等は御用意しておりませんが、若者の減少率はここ5年で非常に高位に推移をしていると。いわゆる高校ないし中学校を卒業して出ていった若い方々が庄原に帰ってきていないというのは、人口の年齢構造のデータから見ても明らかになっていると。特に若い女性に選ばれる、選ばれるという表現が適切かどうか分かりませんが、そうした方々が自らのライフスタイルを謳歌できるようなまちにならないと、当然に選ばれない。もちろん男女問わずではありますが特に女性にとっては、生まれ育った、いくら愛着のあるふるさとであっても、自分の人生の幸福度を高めることができない、そうした生きづらい地域性が残っているところでは若干否めないと認識しております。そうしたことで、今回の文章の表現の中にそこが適切に表現されているかどうかについては、少し検討していきたいと思っておりますが、思いとすると、

若い方々、とりわけ女性の方々がという表現で整理しておりますので、そこはメッセージを持って修正なりを考えていきたいと思っております。そうしたことで御理解をいただければと思います。

○福山権二委員長 近藤委員、いいですか。だから、ここを書き換えるとか、付け加えるということはされるのですか。

○田部伸宏企画課長 それは検討してまいります。

○福山権二委員長 ただいまの答弁に沿ったような加筆があるというふうになりました。それでは、前回の質問事項についてはこれで終わりたいと思います。今日の特別委員会の進め方なのですが、前回、実施計画を除いて全部説明がありました。今日は基本事項、そして基本構想、基本計画と分けて皆さんの御意見をいただきたい。それで議論をしていくと。それが終われば、その項目については順次終わっていくという進め方にしたいと思いますが、いいですか。それではまず基本事項について、皆さんから御意見なり質問なりありましたら出してください。國利委員。

○國利知史委員 基本事項に関して、第2期計画の検証というところがありますけれども、9ページの取組実績と課題のところの基本政策が5つあります。それに基づいて基本施策がそれぞれ振り分けてあって、達成状況等を評価されていますけれども、基本施策ごとに達成率に大きな差があると思うのです。例えば、絆が実感できるまちは達成率が100%となっていますけれども、そのほかを見ると、安心が実感できるまちは7つの項目のうち4つ達成で、そのほか25%、33%と低い数字が出ています。その辺りはどのような捉え方をされているのか、お伺いしたいと思います。

○福山権二委員長 達成率についての質問です。課長。

○田部伸宏企画課長 達成率については、おっしゃるとおり政策ごとでかなり大きな乖離が出ているものもあります。これについては全体的なことよりも、端的に言うと結局は、そこでやってきた施策が効果が出なかったものが多かったという判断をせざるを得ないと。第3期については、きちんと課題に向けてストレートにささる施策をやりたいということで今検討しているというのが一つ。もう1点は、過去のことをあれこれ言うのはあれなのですが、目標指標の立て方にそもそも問題があったのではないかとということで、今回も、ここについてはかなりいろいろ各課とやりとりをしております。そうした影響もあって、大変申し訳なかったのですが、パブコメの時点では調整中という文言で整理したものもあります。内部で検討している過程において、やはりきちんとその効果を測る物差しをまず整理した上で、それを随時というか、もっといえば毎年点検をしてPDCAをきちんと回すような、そういう仕組みを組織も含めてつくっていかねばならない。先般の12月の議会でも関連した答弁がありましたけれども、そうしたところはかなり頭に入れて長期総合計画を整理しておりますし、今後の各課の施策の回し方もそういう方向でいきたいと考えております。

○福山権二委員長 よろしいですか。五島委員。

○五島誠委員 今後はしっかりとPDCAサイクルを回してやっていくのだという話なのですが、これ実は10年前も同じことを言われているのです。なので、そういうことを言われて、本当にできるのかというのが、僕からしたらあるのです。第2期と第3期で、その考え方が実際的にどう変わっていくのかというところが見えづらいと思うのですが、その辺りの見解をいただきたいと思っております。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 これについては、もう職員それぞれがそういった仕事のやり方というか、業務の

仕方を学んでいくしかないと思っております。過去10年と何が違うのかという話なのですが、これは私の思いですけれども、そうした施策について、では技術論的にどうしたやり方をしていけばいいのかわ、例えば庁内の中で研修したりする機会が10年前にあったかという、ほとんどなかったです。ただ、近年では例えばDXの進展、DXはデータに基づいたEBPMがベースになってやっていくものなので、そうしたものについては今の一般職の職員も含めて、研修の機会はかなり増えてきていると思います。これは庁内でもかなりやっています。デジタル推進係や行政管理課を中心に、行革に向けての取組とかも含めて、本当に一歩ずつ日々の業務の中に研修も組み込んでいきます。疑念を抱かれている部分については仕方がない部分かなと思っておりますので、今年度の取組から改善した姿をお見せできるように、職員自ら頑張っていかなければいけないかなと思っております。

○福山権二委員長 評価する視点について、その意味では評価する視点も行動も成長していると。その中でやるということですが、よろしいですか。ほかに基本事項ありますか。

○堀井慎一朗委員 全体のつくりとして達成状況があって、アンケートの調査、それから課題という流れになっているのですけれども、この冊子として基本事項の中に盛り込むかどうかは別として、達成できなかった。そして課題としてはこういうものがあるよと。このまとめをされる中で、なぜ達成できなかったのかというところの視点、そういう視点での組織としてのまとめといいますか、担当課からのこうだったからこのことができていない、だからこれをしなくてはいけないという、その真ん中のところが少し抜けているのかなと感じるのです。その辺りは聞き取りなり、整理などはされているのでしょうか。

○福山権二委員長 総括の視点がはっきり出ていないということですが、どうですか。

○田部伸宏企画課長 これまでの長期総合計画と比べて、そうした振り返りの部分のボリュームが少し減っているというところは現実的なものであります。あえてそうしたところも正直あります。それは別に隠そうとか、表に出すまいとか、そういう意味ではないのです。そうした分析についてはもちろん庁内の中で検討はしております。それを踏まえて、ストーリー仕立てで次の基本構想なり基本計画なりのところへつなげていっているという構想にしております。その表現が足りないのではないかなということについてはそうなのかもしれませんが、やっていないわけではないのです。そこについては次の基本構想、計画なりの、なぜそういう方向性になるのかという説明の中で、各課がかみ砕いて説明できる力を持って、今後、施策運営をしていくという方針で臨みたいと考えております。

○福山権二委員長 いいですか。五島委員。

○五島誠委員 先ほどの話で、検証の部分。はっきり言って行政は、いろんな思いの中で、ある意味失敗したとは言えないのだと思うのです。ただ、見る人から見れば、結果としてこれだけ未達成のものが多くて、何より人口動態の状況の目標についても、かなり早期に目標指数を下回ってしまったと。これは事実としてあるわけで、やはり自己批判といいますか、そうした部分がないと、もうそろそろいけないのではないかなと個人的に思うわけですが。それは執行者だけが悪いとか、市民が悪いとか、議会が悪いとか、そういうことではないです。課長は抜本的にしっかり変えていくということ、この間の一般質問等の答弁の中でも市長を含めてずっと言われている。その姿勢は大変に評価といたしますか、いいなと思うわけなのですけれども、実際に出来上がってきたこの冊子を見てみると、本当に変わるのかという部分がどうしてもあるわけですが。この段階で市民の皆さんにも、もっと危機感を持っていただかないといけないし、我々もきちんと危機感を持ってやらないといけない。そういう意味

でも、そうした言及をあえて書いていないとおっしゃられたのですけれども、本当にそれでいいのかなというのが正直なところですよ。駄目駄目ではなくて、希望を持ったものが出来上がってほしいともちろん思うのですけれども、この基本事項の部分では事実を踏まえて、何で駄目だったのかということころは必要なのではないかと思えます。再度、見解をいただきたいと思えます。

○福山権二委員長　　議会側も一般質問をしたし、いくらか関わってきて議会に責任がないとは言えないけれども、もう少し執行者としてできなかったことについての根拠を出したほうがいいのではないかという御意見だと思います。課長。

○田部伸宏企画課長　　自己批判というか、できなかったことはできなかったともちろん認めています。それが未達成の状況、先ほど質問があったところがまさにそういうところだと思います。そこについて言い訳をするつもりはありませんし、コロナがどうだとか、世の中の流れがどうだとか、人口でいえば日本全国の人口が減退していく中でとか、というところを言うつもりも正直ありません。それを言ったところで仕方がないので。そういうことではなくて、庄原市の取組としてどうなのかということだろうと思うのですけれども、そこについては全く無反省なわけではなくて、そういうものに基づいて次にどうしていくかというところで整理しております。そこが見えづらいではないかと言われることについては、そうした御意見ももちろん承知しておりますし、理解もするのですけれども、今回の長期総合計画は全体的な構成の中でストーリーを描いて、将来に向けて市民の安心感を高めて成長戦略を描いていくという大きな柱の中で整理しておりますので、こういう仕上がりになっているというところで御理解をいただければと思います。それと併せて、先般の議会でもいろいろ御意見をいただき、スマートシュリンクに向けた機運の醸成であるとか、危機感といいますか、市民も含めて現状認識をきちんとやっていただきたいという考え方を、幾人かの委員の皆さんから出されました。そうした思いについては市長も含めて、当然思っております。このままではいけないと分かった上での今回の長期総合計画ですので、そうした考え方の中で整理しているということで御理解いただければと思います。

○五島誠委員　　課長の答弁を聞くと、我々は分かるのですよ。分かるのですけれども、この冊子を見た段階だと少しそれが見えにくいのかなと。うちの町は変わらないといけないのだというのが、課長の思いだと思うのです。それが何となく見えづらいなと。ここでの答弁を聞くと、そのとおりだと思うし、そうあってほしいし、我々もそのために頑張らないといけないと思うのだけれども、この冊子を見ただけだと、それが幾分か伝わりづらいといいますか、何となく分かりづらい部分があったりするので。その辺り、書き方の部分だと思うのですけれども、これは意見でしかないと思えますので申し添えておきたいと思えます。

○福山権二委員長　　部長。

○足羽幸宏企画振興部長　　補足になろうかと思えますが、市民の代表の方に集まっていたこれまでの審議会の中でも振り返りについて、第2期の追加についての御意見も伺っておりますし、議員が言われるような部分の御指摘もあったと記憶しております。そうした皆さんの御意見を踏まえながら、こうしたしつらえになっております。議員言われるような意見はしっかり踏まえまして、今、パブリックコメントもしておりますので、今後の修正をするかどうかについては検討してまいりたいと思えますが、審議会ですとこれといただいているものでもあります。そこは私どもも市民の皆さんの意見も踏まえながら考えていきたいと思えますので、御理解いただきたいと思えます。

- 福山権二委員長 分かりました。ただ、課長がおっしゃった目標を設定したと。できてないと。それはそうだけれども単純に数字に表れる、つまり世の中の変化もあり、その目標を決めたときの状況と今は環境も様々変わっているので、その目標設定についてどうするかについても、もっと十分考えていきたいということでした。それと、できていないのならできていない総括を出せというのは合わないのです。これまでの評価について達成率はこう数字に出したけれども、このこと自体が本当に政策の達成度合いとして習熟したものかどうかというのは、また別の議論としてあると。そういうこといいですか。
- 足羽幸宏企画振興部長 おっしゃったように、そうした課題、達成ができていないところも含めて基本計画に盛り込んでおります。各課がそういう検証をして検討したものを、新たな施策体系の中で、生かせるものは生かしていくという形でやってきておりますので、それは基本計画・基本構想に盛り込んでであると私は認識しております。
- 福山権二委員長 基本事項の認識は大変大事なので、皆さんこれでいいですか。國利委員。
- 國利知史委員 基本的な大まかなことを聞きたいのですけれども、15 ページの④課題のところ、2 の生活環境の向上という欄の中に、都市機能や生活機能を拠点へ集約しとあります。その拠点の意味合いというか、その範囲はどの辺り…。この基本事項をもとに、この後の構想とかに展開していくと思うので、基本となる集約する拠点はどの範囲までを言うのか。例えば、都市計画がある庄原・西城・東城だけなのか。それぞれの地域の、例えば高野の中心部が拠点という枠なのか。拠点の意味合いをお聞かせいただければと思います。
- 福山権二委員長 拠点について。課長。
- 田部伸宏企画課長 第2期の長期総合計画でも庄原を都市機能、東城が準都市、それ以外の支所の地域は中心部について生活拠点というか、地域拠点ということで整理をしています。第3期においても、これまでもいろいろ市政懇談会とかも含めて、コンパクトなまちづくりについてはやっていかないといけない。第3期の基本計画の中でも二つの施策領域に分かれるわけですが、都市機能の維持発展ということで庄原地域の都市機能の再配置も含めた整理、併せて支所地域の中心部について、生活機能やサービスの維持を求めていくといったところをきちんと打ち出すこととしております。それぞれの地域のどこを拠点にするかは我々だけで決めるものではありません。これまでも総領とか、高野地域では、住民の方からいろんな声もお聞きをしております。そうしたところが先行地域になるのかもしませんが、各地域の皆さんの声を聞いて、皆さんが住みやすい地域の中心地はどこになるかということを含めて、令和8年度からもう具体的なもので検討していきたいという思いでおります。
- 國利知史委員 庄原・西城・東城だけに集約させるという意味ではなくて、それぞれの地域の拠点に、スマートなまちづくりを進めていくという認識で大丈夫ですか。
- 田部伸宏企画課長 御認識のとおりです。
- 福山権二委員長 ほかにありますか。ないようでしたら、次に基本構想へ移ります。基本構想の領域で御質問・御意見がございますか。基本事項を踏まえて基本構想として提示をされておりますけれども、ここがないというのがありますか。徳永委員。
- 徳永泰臣委員 基本構想の中の43 ページ、市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成、(1) 基本的な考え方の4行目ぐらいに、義務教育課程の充実はもとより、幼児教育の推進や小中学校と高等学校とのつながりを深めることで、市内に質の高い教育環境を整備することが必要ですと記されてい

ます。近年、庄原市の出生数は130人とか117人とかで、今後、小中学校と高等学校のつながりを深めることとか、一つの高い教育環境を整備するというのをうたわれているのですけれども、どういふことを想定されているのか見えてこないのです。イメージがあれば教えていただきたいと思います。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 こちらについては、いろいろ御意見もあろうかと思いますが、特に学校教育の部分、教育委員会を中心にしっかり学びの質の向上を推進してきております。そうした中で、おっしゃるように人口減少の影響も非常に大きく受け、併せて、例えば三次への教育移住といった、10年前にはなかった新たな課題も出てきております。そうしたことに対応して、子供たちを通わせたくなる学校というところの整理をきちんとやっていかないといけない。これまでの取組をさらに充実していかなければならないということで、それぞれの学校の魅力化や、地域の愛着を高めるような教育を庄原市の資源を使って、豊かな自然であるとか、温かい人とのつながりであるとか、そういったところを情操教育も含めて進めていきたいと考えております。今後、大きく出生数が回復するというところは非常にチャレンジな道になると思いますけれども、少ない人数でも、しっかり庄原のことを愛してもらえらるような、そしてさらには、自らのキャリアを生かせる、きちんと学力も積めるような、そうした教育環境を整理していきたいと思っております。具体的な取組については、予算の兼ね合いもありますので今日は申し上げられませんが、そこは御理解をいただければと思います。

○福山権二委員長 徳永委員。

○徳永泰臣委員 あわせて、のところに県立広島大学のことが書いてあります。県立広島大学との連携ということで、リカレント教育と記入されていますが、県立広島大学との連携についてはどういう考えを持っておられるか、聞きたいと思います。

○福山権二委員長 県立広島大学との連携について。課長。

○田部伸宏企画課長 こちらについては、これまでも特に徳永議員から何回も一般質問でいただいておりますけれども、庄原になくってはならない、本当に貴重な大切な高等教育機関だと思っております。議員もよく御承知だと思いますが、少子高齢化していく中で、今後10年で大学の数はかなり減っていくのではないかと推測もされています。県立広島大学のライバルといったら表現があれですが、課程が重なる大学、修道大学の農学部であるとか、安田の理工の関係であるとか、がある中で学生の興味を引くために、県立広島大学も非常に厳しい状況に行かれるのではないかと我々も危惧しております。そうした中で、庄原でしかできない自然の関係であるとか、農業の関係であるとかは、うまく使えばすごくアドバンテージになると思っております。そのためには、もちろん学生の暮らしの充実も含めてやっていかなければいけませんし、もう少し大きな意味で、県立広島大学との連携をまちづくりの核として据えていかなければならないということについては、市長も含め、一貫した思いでおります。そうした取組についても、もう一步踏み込んだものを令和8年度からしっかりやっていきたいと思っております。県立広島大学とは、今年度初めから人事も一新したということで、様々な意見交換をしておりますし、今年は県立広島大学の卒業式を市民会館で開催すると。これについては市もいろいろと協力しております。そうした学生とまちなかといいますか、市民の皆さんをつなげる取組も様々やっていきたいと思っておりますので、そうしたことで御理解いただければと思います。

○福山権二委員長 徳永委員。

○徳永泰臣委員 県立広島大学も大方40年近くがたって、施設もかなり老朽化しております。どうい

形になるか分かりませんが、移転もあるかもしれませんので、その辺もしっかりと関わっていただきたいと思っています。先ほど言われたように、大学の競争は厳しくなっていますので、県立広島大学にしても、魅力づくりというか、進めていかないととても生き残っていけないと思います。次のことを考えていかないといけないと思っていますので、その辺、しっかり関わっていただきたいと思っています。

○福山権二委員長 県立広島大学、まちづくりと関連するという一つの大きな方針も構想としてあるようですから、十分に踏まえていくということだと思います。他にありますか。谷口委員。

○谷口隆明委員 今回、2期と比べて半分以下の大変コンパクトな計画で、焦点を絞ってあって分かりやすいと思います。46ページの構成のところ、前回の議員全員協議会でも申し上げたのですが、安心な暮らしの充実のところに地域経済があります。その中で例えば農業の課題とか林業の課題をどうやっていくかというのがあって、将来に希望が繋がっていくのところにまた農林業があるのです。この地域経済はなぜここにあるのか、どうしても私は理解できなくて、同じことを繰り返し伺っております。新しい基盤産業をつくるということで、将来の希望が繋がっていくのところに農林業があるのですが、地域経済に農業・林業の問題点を詳しく書かれていて、なぜ二つに分けたのか。むしろ、地域経済は、将来に希望が繋がっていくというところにあったほうが、私はすっきりするのです。この前も聞いたのですが、もう一度伺いたいと思います。

○福山権二委員長 同じことが二つ書いてあるので一緒にしたらどうかを含めて、二つに分けた意図について。課長。

○田部伸宏企画課長 第3期長期総合計画の施策の振り分けをする際に、いろいろと庁内で協議する中で、漏れなくダブリなく、その施策が求める目的は何かをきちんと仕分けしようという大きな方針で臨みました。おっしゃるとおり、これまでは農業の振興という農地を守る、ブランド化した農産物を市外へ売って外貨を稼ぐまで、一つの農業の振興と捉えてきました。果たしてそれが本当にその施策の目的に合っているのかを再検証したのです。例えば日本型直接支払制度のような農地を守ったり、また、市場へ出すことよりも自給自足といいますか、兼業農家の大半の方がここに入るのかもしれませんが、そうした小規模農業の皆さんは、ある意味地域の経済を支える非常に重要な要素ではないかと。そうした方々が憂いなく、農地をきちんと守って作物を育て、時には自ら消費し、時には小さな最寄りの市場に出荷して少しお金を得るとか、そうした循環をしていって、外に出ていくはずの経済が地域の中で回っていく。そして地域の経済基盤を高めていって、可処分所得が上がったり、暮らしが維持できたりする。そうしたものについては、安心な暮らしを充実させていく一つの仕組みであろうということから、地域経済にセットしたと。一方で、庄原市はこれまでもそうした農産物であるとか、林業もそうなのかもしれませんが、林産物を生産して市外へ表出し、市外から経済的な流入を得てきたと。それは今後も庄原の産業を支える大きな柱の一つであろうと考えております。これまでは一口に基幹産業ということで、庄原は古くから農業で成り立ってきたと言っていたのですが、果たして本当にそれが基幹産業であるのかどうか。データの上から見たときに、工業品の製造額とかサービス業の生産額からいうと、中にはもちろん大きなものもありますけれども、占める割合はかなり減ってきています。そうした中で、そこはきちんと切り分けをして、域外からの流入を拡大していく部分の農業については、将来に希望が繋がっていく仕組みづくりの施策として取り組んでいくべきであろうと。見ている目標が違うということから、農業としてひとくくりにするのではなく、区別をし

ていく。これは農業に限ったことではなく、商工業もそうです。例えば生涯学習の部分でも、スキルの上昇に係るものは人的資源の育成であるけれども、生きがいつくりに係るものについては暮らしの安心の一つの施策であろうと。それぞれの部分で切り分けをした結果、このような施策体系になったということで御理解をいただければと思います。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 谷口議員と課長のお話をそれぞれ聞く中で、議員おっしゃるように、確かに少し分かりづらいなど。その原因は何なのかなと思ったのです。三つの柱がある中で、1と2・3に明確な違いがあります。それは、読点で分けてある将来像の前半部分と後半部分だと思うのです。だとするならば、この三つを柱にするから分かりづらいのかなと思ったのです。要は、柱の1は柱ではなくて土台だと思うのです。いわゆる基盤の部分になってくると。そこから、将来に向けてが柱になってくるのかなと感じました。そうしたことも含めて、この間ずっと、課長の答弁からは変わらなくてはいけないのだというところを感じております。先ほど基本事項のところでも触れましたけれども、それが連動して、この基本構想・基本計画につながっていくと思うのです。いかに変わらないといけないかというところを表現する中で、例えば46ページの表一つとってもそうなのですけども、今までと同じような書き方なのです。こういうことを言ったらよくないかもしれないのですけれども、何か古臭い書き方だなと思ってしまう。僕はこの基本構想すごくいいなと思っていて、分かりやすいところもあるし、34ページからつながっていくところで何かすごく変わらなくてはいけないと。その中で、この部分もっと現代的なデザインといいますか、もっと見て分かりやすいものにしたほうがよいのではないかと。何度も繰り返すけれども、我々は課長が答弁するからわかるのです。せつかくなら、それがもっと分かるように表現の仕方をもう少し変えていただくと、より思いが伝わりやすいのかなと。もったいないなと個人的には感じるのです。

○福山権二委員長 もっと詳細な書き方がいいのか。

○五島誠委員 詳細に書けということではなくて、すごく言い方が悪いですけども、かっこよくしたほうがいいのかと思うのです。この表一つとっても、そのほうが伝わるから。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 内容については御賛同いただいていると思って答弁させていただきます。デザインについては、これは全てサンプルということで大変申し訳ないのですが、まだまだブラッシュアップをする必要があると思っています。例えば46ページの表も、ステレオタイプでという御指摘については承知もいたしましたので、表現については今から様々検討していきたいと思っています。受託事業者ともいろいろ話をしながら、今までにない斬新なデザインがいいのか、分かりやすいデザインがいいのか、そういったところを含めて検討していきたいと思っています。併せて、前回も松本議員から、くどいので、もう少し分かりやすくということもありました。そのときにもお話したのですが、せつかくつくって、若い人にもいろいろ参加をしてもらって出来上がったものなのだから、そうした方々にも伝わるようなものになってほしいということは、委員の方からも、市議会からもいただいております。そうしたこともあって、概要版を策定するのはもちろんなのですけども、もう一つ、中学生とか高校生向けの冊子も作って、総合の授業とかに使って、我々も出向いて説明するような機会も含めてセットで考えていきたいと思っています。そうしたデザインについては、この本体とは全く別個に考えます。それこそ若い人に刺さるものを、このメンバーで考えられるかどうかは分かりませんが、

若い職員の意見を聞いたりして、こういうのが見やすいのではないかとか、こういうのが伝わるのではないかというのは、努力していきたいと思っております。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 質問の仕方が悪くて恐縮なのですが、非常に前向きに答弁をいただいたなど。くどくなりますけれども、本当に変わらなくてはいけないということは答弁を聞くと分かるのです。それが、これを見て、庄原市は変わっていくのだと、危機感と同時に希望を持てるような書きぶりにするのが大切なのかなと思います。話を戻します。この3本の柱というのがよく使われる言い方だと思うのですが、中身を見ると、先ほども申し上げたように、柱の1はもう柱ではなく土台なのです。そういう考え方で、この将来像から基本施策のところをつくられていると僕は思っています。今さら、柱ではなくて土台にしろと言ってはならないのは重々承知しているのですが、先ほどの谷口議員への答弁を聞いても、基本的な土台があって、それから未来に向かっていく柱が立っているというイメージのほうが非常に分かりやすいし、この内容と合致しているのではないかと思います。申し添えさせていただくところで、私はこれで結構でございます。

○福山権二委員長 計画内容については、いいものをつくっていると。表現方法については、課長が相当なメニューを言われましたので、これ通りではないと。また作り変えると。作り変える中身については当局に任せて悪くなることはないと思います。堀内委員。

○堀内富夫委員 43 ページの人的資源の育成で、施策領域の次世代教育、リカレント教育の推進、グローバル人材の活躍、ふるさと愛・誇り、これらをやるといえるのは分かるのですが、教育段階のどの領域・どのステージでどれを推し進めていくかをもう少し明確にしたほうがいいのかと思います。例えば、ふるさと愛・誇りでいえば、当然、中学校・高校でもやっていかないといけないのですが、どうしてもその教育の領域上、児童教育であったり小学校の教育であったり、その辺りを重点的にやると。グローバル人材の活躍も、どのステージで推し進めていくのかと。そういうところがもう少し市民の皆さんに分かるような書き方がいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 表現については研究いたしますが、議員が思っておられることは恐らく次の基本計画の中で示すべき事項かなと思います。そこでも表現が足りないということであれば、検討してまいります。よろしくお願いいたします。

○福山権二委員長 堀内委員。

○堀内富夫委員 ぜひこの段階でもっとしたたかに、戦略的に打ち出していただけたらいいのではないかなと思っております。よろしくお願いいたします。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 この構想のところなのですが、これから10年、人口が減っていく中で庄原市がどういうまちを目指していくのかということが、視覚的に、ビジュアル的に分かるようなメッセージが必要なのではないかと思うのです。基本的な項目はいろいろ書いてあるのですが、あまり今までと変わらないと思うのです。構想のところは、どういうまちを目指すのかというメッセージをもう少しうまく編集して、若い人にも、これから10年で庄原市はこういうことを目指しているのだということが分かるような構想にしていいただければと思います。いかがでしょうか。

○福山権二委員長 答弁。課長。

- 田部伸宏企画課長 先ほどもお話ししましたが、そうしたデザインも含めて再検討の余地はあると思っています。全ての方に、全て同じように届くかどうかは分かりませんが、できるだけそういったところは頭に入れながら、デザインをしていきたいと思います。
- 福山権二委員長 よろしいですか。松本委員。
- 松本みのり委員 43、44 ページの教育についての視点なのですがすけれども、まちの将来のため、市民のためにしっかり勉強してくれよというのは伝わってきます。しかし、中高生に向けても冊子をつくるという話もありましたけれども、中高生から見たときに、自分たちがここで学んで、どう幸せを感じていくのか、その視点が抜けてしまっているのではないかと感じます。今、不登校の子供たちも多くなっていますけれども、庄原で学んでよかったという、そこをつくっていく視点と、評価の部分でもここで学んでよかったというところを見て、庄原の教育はよくなってきたというのを見てもらえるものにしていただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 その視点が抜けているということなのですが、抜けているとは我々は思っていない。議員がおっしゃるような教育も重要ということはもちろん認識しております。表現について、どこがどうかということがあれば検討したいと思いますが、そういう思いがないことはありません。
- 福山権二委員長 松本委員。
- 松本みのり委員 表現の部分だと思うのです。これを読んだときに、市民の期待に応えないといけない、将来を担わないといけない、そのために頑張れと言われてるように1番に伝わるので、このまちで育った子供たちに幸せになっていてもらいたいのだというメッセージを、もっと打ち出していきたいと思っています。
- 福山権二委員長 よろしくをお願いします。課長。
- 田部伸宏企画課長 市民の期待に応えるというのは、そういう義務的なことではないということもしっかり打ち出していきたいと思います。子供たちが子供たちの人生を豊かに過ごして欲しいというのが市民の期待だと私は思っています。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 例えば安心な暮らしとか、基本的にどこの市町村でもやらないといけないようなものなのですがすけれども、もう一つの視点として、広島県において庄原市がどういう地域なのか。庄原市にはどういう強みがあって、広島県の中でもここがすばらしいのだというメッセージというか、そういう部分を構想の中に入れていただければいいのかなと思います。例えば森林面積が非常に多いとか、農業をやる人たちが多くとか、広島県の中での庄原市の立ち位置、強みをメッセージとして構想の中のどこかへ入れていただければと思うのですが、いかがでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 広島県に限定することの意義というか、意味がどうかというところはあるのですが、魅力の発信という観点からいうと、しっかりそこは打ち出していきたいと思います。構想に付け加えるかどうかは別として、例えば資料編でそこが分かるような形をつくるとか、そうしたところは研究をしていきたいと思います。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 広島県に限定するかどうかなのなのですがすけれども、日本でもいいのです。ただ、日本の中で

庄原市となると非現実的なので、広島県の中で食料品の供給基地的な役割であるとか、林業関係のものであるとか、何か資料でもいいですから庄原市の強みを若い人たちにもメッセージとして送るような、庄原市もなかなかいろんなものがあるのだなということが分かるような構想にしていればと思います。意見です。

- 福山権二委員長 意見として、よろしくお願いします。ほかにありませんか。近藤委員。
- 近藤久子委員 非常に細かいことです。37ページの安心な暮らしの充実の3行目に、手を取り合って取り組むという表現があるのです。行政の中でなかなかこういう表現は出てこない。次のページには、行政の役割として、一体となって取り組むという表現があります。わざわざ手を取り合って取り組むという表現をなされた理由が何かあるのですか。
- 福山権二委員長 答弁。課長。
- 田部伸宏企画課長 特に他意はございません。表現については研究します。
- 福山権二委員長 近藤委員。
- 近藤久子委員 表現の中で、安心な暮らしの充実は、実現しますと言い切っているのです。この10年間で、実現します。この言葉は非常に重たいと思います。普通は何々していきますとか検討していきますとか、そういう表現が多い中で、実現しますと言い切れる自信がおありなのでしょうね。
- 福山権二委員長 答弁。課長。
- 田部伸宏企画課長 この文言のとおりと。そこはもしかしたら、研究をさせてもらうかもしれません。
- 福山権二委員長 近藤委員。
- 近藤久子委員 変えてくださいという意味ではないのです。10年間、これを実現しますと言い切る行政の態度に、市民の方は期待を持ってこれを読まれると思います。変えてはいけないのです。実現してください。
- 田部伸宏企画課長 分かりました。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 サンプルとして挙げられていて、今後変わってくるのだらうとは思いますが、男女の固定的な概念がこのイラストの中に結構あるように思うので、その工夫をいただければと思います。女性は子供と手をつないで買い物に行くみたいなイメージがあったりするので、そういう場面もあるのでしょうか、少し固定的な概念があるのかなという気がしております。検討していただければと思います。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 サンプルですので、ここはしっかり表現を研究したいと思います。
- 福山権二委員長 ほかにありませんか。前田委員。
- 前田智永委員 行政経営の刷新が新しく入ったのだと思うのですが、ここに対する思いがいまいち分かりません。基本構想でも、最初の三つの柱という大きなくりの中では図形も出てきている中で、行政経営の中ではそれがない。目標指数もない。ここをどう扱っていくのか。職員に対してするのか、AIとか、デジタル化とか、そういったところを目指していくのか。この基本的な考え方の中でもいまいちよく見えなくて、市民の方がこれをぱっと見たときに、何でここにこれが載っているのかなと思われるかなと思ったのですが、ここはどう取り扱っていくのでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 最初の三つの柱はまちづくりの基本の施策になる部分です。この行政の役割は、その三つのまちづくりの柱を進めていくために、我々行政がやらなければならないこと、なし遂げなければならないこと、行政職員として能力を高めていく必要があるようなこと、そうしたことを整理した部分です。もちろん、施設の適正配置であるとか、健全な財政運営の方針であるとか、市民の皆さんといろいろ議論して、協力していただきながらやっていかないといけないことはありますが、こうしたまちづくりをするためには、我々職員が率先して筋肉質な体質にならなければならないということを明示したものとなっております。具体的なKPI・KGIについては、ここではお示ししておりません。ここは正直に言いまして、この後出てくる行政経営改革大綱との連動が非常に色濃いものになってこようと思いますので、具体個別な目標数値については、そちらでお示しをする形になるろうかと思っております。

○福山権二委員長 前田委員。

○前田智永委員 もちろん長期総合計画が大本にあって、そこから行政経営改革大綱につながっていくものはあると思うのですけれども、農業にしても、教育にしても、全部それぞれの計画を立てていくわけですから、それはもう全部一緒だと思うのです。ここに目標数とかが何もなく、職員の方がこれを見ても、自分が何を目指していけばいいのか、どういうところを改革していけばいいのか分かりづらいと思うのです。先ほどの図形が見にくいというのは私も思っていたのですけれども、例えば言葉一つにしても長くて分かりづらいです。最初の、75歳以上の高齢者のうち、交通手段がないため外出できなかったことがよくある人の割合。あるのかないのかどちらなのかみたいな、ぱっと見て分からないというのは、図形にした意味があるのかなと思います。ぱっと見て分かるということが図形を用いる意味だと思うのです。この行政改革のところにもそういった指標を取り入れて、きちんとこれを教科書として職員の方も市民の方も、これを目指していこうと分かりやすくする必要があるのでないかと思うのですけれども、どうでしょうか。

○福山権二委員長 課長。答弁。

○田部伸宏企画課長 まず、KGIの表現については、まだ研究をしていきたいと思っております。このKGIは、本当に苦勞してひねり出したものなので、おっしゃるとおり分かりづらいものもたくさんあります。もう少し簡略化して、ぱっと視覚的に分かるような表現を研究してまいります。行政経営の刷新の目標数値については、もちろんこれを見て職員も整理をしていくのですが、実施計画的なものは先ほどの行政経営改革大綱になります。あとは事務的なスケジュールを言わせていただくと、行政経営改革大綱は令和8年度の策定になりますので、そこで設定される指標をここへ出すことは時系列的に難しいといったところも、事情としては正直あります。補完する関係になると思いますけれども、職員は行政経営改革大綱を見ないわけではないのです。今回の行政経営改革大綱は管理職だけではなく、一般職も含めたワーキングチームを構成して策定に入っておりますので、職員の中にもそうした意識が根づいていくかなと思っております。おっしゃるところの趣旨は理解いたしますので、表現については検討していきたいと思っております。

○福山権二委員長 よろしいですか。岡野委員。

○岡野茂委員 同じく行政経営の刷新ですけれども、今後10年、行政が運営される中であって、コンパクトシティアンドネットワークという考え方も出ています。市の行政の組織として、本庁と支所との関係が、これからの10年、こういう在り方というような記述はなくてもいいのでしょうか。今までど

おりなののでしょうか。

○福山権二委員長 課長。答弁。

○田部伸宏企画課長 長期総合計画のここへ記述するべきかどうかについては、少し議論があるかもしれませんが、ここに書いていないからといってやらないわけではもちろんないです。必要に応じて、社会の要請に応じて、そこは見直していくべきだと思っています。今回の基本的な考え方の中には、そこまでの記述は必要ないと今は理解をしております。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 基本構想なので、具体的な、実施計画的なことは要らないと思うのですが、記述として何か方向性的なものがあれば書いておくべきだと私は思います。意見です。

○福山権二委員長 そういう意見でした。ほかにありますか、堀井委員。

○堀井慎一朗委員 議員全員協議会でも質問したかと思うのですが、43ページの三つ目の柱、市民の期待に応え、という言葉。私も同じように、子供たちがこの文字を見たときに、市民の方のためになることをするためにいろんなことを学んでいく、という意味合いに捉えられかねないのかなと思います。先ほど課長が言われた、市民の期待はそういう意味ではないということが、どこかに入れば説明になるのかなと思います。併せて45ページの基本的な考え方の1番下にも、市民の期待に応えるという言葉があるのです。確かに行政組織としては、市民の期待に応えるという部分は大きくなってくると思うのですが、同じ言葉が使われているけれども意味合いが違うという部分になると思うのです。その辺りを今後、整理、検討していただくことはできないでしょうか。

○福山権二委員長 答弁。課長。

○田部伸宏企画課長 同じ言葉でも違う意味を持つということはこれに限らずあると思いますが、そうした意見については庁内でも少し考えたいと思います。どちらかの表現を変えるか、区別化するというのはできるかなと思いますので、そこは誤解がないように整理をしていければと思います。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 私も先ほど松本議員や堀井委員がおっしゃられたことに、そうだよなと思ってきて、市民の期待に応えが係るのは人的資源なので、つまりは、若者や子供たちなわけです。多くの若者、子供たちは市民の期待に応えるために生まれてきて育っていくわけではないと思います。行政の方向性として、これはそう考えるほうがいいと思います。柱なので、今さら表現を変えろといっても難しいかもしれませんが、表現を変えたほうがいいように私も思いますので、追加で言っておきます。

○福山権二委員長 答弁はありますか。

○田部伸宏企画課長 これについては審議会の中でもしっかり議論していただいて了承いただいたと認識しておりますが、庁内の中でも共有をして誤解を生まないようにします。市民の方が子供たちに全く期待をしないということもあり得ない話だとは思いますが、思いもよらないプレッシャーがかかるということはあってはいけないし、そういうつもりも全くありません。そこについては、中身の考え方のところで整理をするか、そうしたことも含めて中で考えをまとめさせていただければと思います。

○福山権二委員長 よろしいですか。他にありませんか。基本計画へ移ります。谷口委員。

○谷口隆明委員 57ページの生業と里山環境の維持で、先ほど課長が、小規模農家や家族農家などが生きがいを持ってというような意味もあると言われたのですが、そうであれば、ここで農作業受託事業者の範囲の拡大やスマート農業の機械導入などというのは…。これを書いたら、そのように思えませ

ん。もっと先ほど説明されたような、生きがいを持って農業に取り組めるということが分かる表現であれば、私もこういう質問はしないのですけれども。それから林業においても、後の林業では大規模化やいろんなことを書かれて、こちらでは林業についても…。2期の計画では自伐型林業とか、木の駅プロジェクトとか、市民参加でみんなが林業に取り組んで、市民全体が森づくりにも取り組んでいくというような感じで書かれていました。そういうことをここへ書かれれば、地域経済での農林業の振興と、後の農林業の振興との意味の違いがはっきり分かると思うのです。今から変えられるかどうか分かりませんが、全く違うのだということが分かる書き方ができないものか、お伺いします。

○福山権二委員長 答弁。課長。

○田部伸宏企画課長 確かに個々の全てを網羅できればいいと思うのですけれども、思いとすると、先ほど述べたとおりです。スマート農業機械の導入も、ブランド化して拡大戦略をしていく人だけのものではありませんし、農地を守るためには不採算地域の農業を受託する方々への受託範囲の拡大も必要なのかなと思っています。そこら辺の表現が重なっていることについては確かに御指摘のとおりかなと思いますので、表現については再度精査をし、検討していきたいと思います。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 63 ページの林業の振興のところに2行ほど書いてあります。昨年12月の議会の一般質問で福山委員長が、林業施策で市長の思いをどう実現していくのかといった感じの質問をされたときに、長期総合計画で具体的にはお示しをすると答弁がありました。これですか。

○福山権二委員長 部長。

○足羽幸宏企画振興部長 あのとのお話で言いますと、長期総合計画もそうですが、林業のプランをお示しするようになっておりますので、それで具体的に説明しますということでお答えをしております。具体的な施策等については、企画建設常任委員会の中で説明をしております。表現が薄いという御趣旨かなと思いますが、そこについては検討、調整させてもらえればと考えております。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 薄い薄くないというより、余りにも総花的過ぎると思うのです。プランで示されるというのでも分かるのですけれども、当時、福山委員長は、要は市長の公約の具現化という形で聞かれたわけです。それを、これとプランで示すとおっしゃったわけです。プランで示すにしても、これなのかというのが正直な…。何かそのつながりが、質問された方が納得されているのならいいかなと思うのだけれども、これをぱっと見たときに、どうもそのときの答弁に結びつかないというか、端的に言う市長の色が出ていない。そう思うのです。いやこれが色なのですよと言われたら、そうですかと下がりますけれども、再度答弁をもらいたい。

○福山権二委員長 部長。答弁。

○足羽幸宏企画振興部長 長期総合計画ということで、総花的になっているところは否めないと考えております。特にプランで、しっかりとやっていくことについてはお示しをしているつもりですので、林業振興の部分についての長期総合計画の表現については、もう少し検討してまいりたいと思います。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 長期総合計画のことに直接結びつく議論ではないかもしれませんが、このことに限らず、昨年の4月に市長が代わられて、市民の皆さんが新しい市長はどういうことをするのかとすごく注目されていました。約8か月間、議員もそのような趣旨の質問を多岐の分野にわたってして

きました。そうした中で、長期総合計画で示すという答弁をこの間繰り返されているわけです。となったときに、その答弁で本当によかったのかと。一例として、先ほど林業振興のことを挙げました。今さら言っても仕方ないのかもしれないけれども、市長の公約や思いの具現化をするに当たって、乱暴な言い方をすると全て長期総合計画で示すとなっている、そのメッセージの出し方が本当にいいのかどうかは、もう少し庁内で検討されたほうが良いと私は思うのです。これは意見です。

○福山権二委員長 部長。

○足羽幸宏企画振興部長 御意見は非常によく理解するところです。長期総合計画、具体的には実施計画なり、予算で出していくようになるかと思えます。第3期長期総合計画で全て書き切れないところもありますので、表現については、先ほども言いましたように検討してまいりたいと思えます。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 こうなるわけです。基本計画で書ききれないから、今度は実施計画とか予算になっていく。市長のメッセージがまた伸びるわけです。それを指摘しているのです。長期総合計画に限らず、そのメッセージの出し方が本当にこのやり方でいいのか、というところはもう少し庁内で検討されたほうが良いと私は思います。

○福山権二委員長 部長。

○足羽幸宏企画振興部長 情報の出し方について、御意見としては踏まえさせていただきますけれども、予算ですとか、実施計画、長期総合計画に基づいた発言、情報発信になっていかざるを得ないというところも御理解いただきたいと思えます。いただいた御意見を踏まえまして、今後、情報の出し方については検討してまいりたいと思えます。

○福山権二委員長 國利委員。

○國利知史委員 僕もそっくりそのまま同じことを聞こうかと思っていました。書き方、表現の仕方については検討すると言われましたが、第2期は谷口委員も言われたように、自伐林家の育成とか、林業に関わる人口を増やしていこうという木の駅プロジェクトとか、そういったことがすごく分かる表現になっていました。今回はすごくスマートになっていて、これを読むだけだと、小規模な林業をやられている方にとっては、大型機械の導入ってうちはどうなるのかみたいな感じにもなると思うのです。その表現のところは検討すると言われたので、ぜひ検討していただきたいです。それともう一つ、市長の思いがどう反映されているかというところで、市長は庄原に関わる方の未来がつながっていくまちと言われていました。そのためには、今までとは違ったチャレンジをしていかないといけないのではないかと僕は思っています。市民の方とも意見交換をする中で、第3期長期総合計画で大幅に変わるとか、チャレンジするとか、そういったことは入ってくるのか。今の市長はどういうところにチャレンジして10年後につなげていくのだろうか、という話をよく聞くのです。長期総合計画でお示しするという答弁がずっと続いている中で、市民の方々の期待値がすごく上がってきていると思えます。第3期長期総合計画の中で、新しくチャレンジするとか、そういう目玉の部分はあるのですか。

○福山権二委員長 課長。答弁。

○田部伸宏企画課長 先ほど来ありました、長期総合計画で、という話については、御指摘のところもあるかなと思えます。ここから先は市民不在のといえますか、行政の話になってしまうかもしれませんが、極論を言うと、長期総合計画は10年間の大きな中期的な目標ですので、市長のマニフェストではないというのが実態だと思います。では、市長の思いがどこに表れるかという、予算編成である

うかと思えます。そこをこちらも丁寧に説明してきていない部分があったので、そういうそごが生じたのかなど。そこについては我々も素直に反省をするべきかなと思っております。そうは言いつても、八谷市長の目指すまちの姿をどのようにつくっていくかという設計図として描いたのが今回の長期総合計画です。タイミングも合いましたし、将来はこういうまちになっていきたい、つくっていききたいという思いが、今回の長期総合計画に込められているというところについては、当然そうっております。ただ、個別の取組について、ものすごくカラーを出される自治体や首長もいらっしゃいますが、本来、長期総合計画の、特に基本計画とかの部分についてはどうしても総花的というか、抑揚のないものになってしまうというところは、少し御理解もいただきたいなと思えます。どこが最も変わったかといいますと、やはり基本構想の部分かなど。冒頭の安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていくまちというところが、本当に打ち出したいメッセージの第一。そこに向けては、スローガンだけ変わって、やることは変わってないではないかと思われるところもあるかもしれませんが、これだけを読んで、これだけで全部分かってくれと言うつもりはありません。議会での一般質問のやりとりを通じたり、市民と市長や、その他の幹部が話をすることでしっかり伝えていったり、あらゆるところで全方向的にやっていくべき話だと思えます。もちろん、これが教条的な文章にはなりますが、それだけで全てが浸透していくものではないと思っております。そうしたところは御理解をいただきたいなど。分かりやすく伝えるように努力をする必要があるということは重々承知しておりますし、今日いろいろな御意見をいただきましたので、正すべきところは正して進めていきたいと思っております。

○福山権二委員長　　よろしいですか。桜田委員。

○桜田亮太委員　　中間目標と目標、それぞれ数値を挙げておられますが、これは希望だけではなく何かの根拠があって出された数字なのでしょう。

○福山権二委員長　　課長。

○田部伸宏企画課長　　KPIは、大きく言うと、いわゆる目標とすべき数値です。チャレンジして、こうなるべきだろうというものと、あとはメモリといいますか、バロメーターとして今この位置にあるから、ここは維持していかないといけないとか、そういう二つの側面があると思っております。基本的には、ベースとなる数値は統計数値やアンケートの数値で捉えています。目標値や中間目標については、将来のことですので基本的に根拠となるその時点の数字はありません。ただ、過去の推計から伸び率であるとか、ここまではやらなければならないだろうということを様々なアンケートや意識調査から捉えた数字であるとか、それぞれの指標によって設定のやり方は違いますが、何らかの根拠、現状の値に基づいてはじき出された数字であるということは、御理解いただければと思います。

○福山権二委員長　　木山委員。

○木山義仁委員　　議論の経過を教えてください。64 ページの農林業の達成を目指す指標のところ、1,000 万円以上の農業経営体数について、中間目標と目標を全国平均値以上と設定されています。全国では北海道と北関東、九州という大規模な農業形態がある中で、庄原市は中山間という条件不利地域です。全国と庄原市の農業をめぐる環境が大きく変わる中で、目標として全国平均値以上と設定した議論の経過を教えてください。

○福山権二委員長　　課長。答弁。

○田部伸宏企画課長　　農業関係の数値については、今策定しております第3期農業振興基本計画の議論

の中で出された資料をもとにしております。私はメンバーでないので具体的なものではありませんが、部長が。

○福山権二委員長 部長。

○足羽幸宏企画振興部長 全国平均値以上という目標を設定したのですけれども、しっかりもうける農業と申しますか、攻める農業、外貨をしっかり稼いでもらえるような経営をしてもらうために、そういう方を増やしていこうと。全国平均値以上の農家を庄原に生み出すというところをしっかりと支援していこうではないかという意気込みを、こういう目標数値にしているところでございます。

○福山権二委員長 木山委員。

○木山義仁委員 しっかりもうかる農業をつくっていくということで理解しました。ただ、全国でかなり状況が違う中で、目標を具体的な数値ではなく全国平均値以上とするのは少し疑問があるという意見です。続けていいですか。57、58 ページです。地域経済の中で課題として、有害鳥獣の被害ということで、12月の一般質問で議員が質問したと。本市においても非常に大きい課題だと認識しています。施策についてはICTを活用した捕獲の導入とか、そういったもので取り組むとあるのですが、58ページに具体的な目標指標が設定されていないのかなと思います。これについても、どういった議論がされたのかという経過を教えてください。

○福山権二委員長 課長。答弁。

○田部伸宏企画課長 手元に資料がありませんが、指標の部分については、そこを重大な課題と認識しているということも踏まえ、再設定も含めて検討させていただければと思います。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 細かな質問になりますが56ページ、コンパクトなまちづくりの中で、地域住民の意見を反映した魅力あるまちづくり計画を策定し、と書いてあります。コンパクトシティで新たな計画の予定があるのでしょうか。

○福山権二委員長 答弁。課長。

○田部伸宏企画課長 先ほども説明しましたが、それぞれの地域で都市機能の拠点と、地域の拠点機能の維持を進めていきたいと思っております、それに向けてはそうした計画が必要であろうと考えております。令和8年度から策定に向けて作業を進めていくように考えております。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 もう1点質問なのですけれども、63ページの農林業に関連して、今、農業で課題となっているのが農業従事者の高齢化と、それに伴う担い手不足による耕作放棄が増えてきていることです。中には稲が立ったまま冬を越してしまうという状況が結構見られるのです。担い手を確保しないと農業がやっていけないという視点の中で、もう少し、例えばここにも書いてありますけれども、農林振興公社の受託面積をこの程度にするとか、公社だけに限らず法人も受託を進めていくとか、あるいは認定農業者も進めていくとか、といった具体的な担い手の記述があればいいのかなと思います。農業を個人でされている方は御家族が担い手になると思うのですが、今、そういう状況がなかなか難しく、農業をやっている方がどんどん高齢化していくと、それこそ作業受託の受け皿が担い手になるのではないかという意識を持っています。労働力の不足ということだけではなくて、その辺の記述が少し必要なのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○福山権二委員長 課長。答弁。

- 田部伸宏企画課長 おっしゃる趣旨は承知いたしましたので、少し検討したいと思います。
- 福山権二委員長 宇山委員。
- 宇山茂之委員 人口減少の適応と次世代教育の中に、高校と大学との連携とか、充実、支援といった言葉が使われています。今あるから、そういうふうにあるものとして先の計画を立てていらっしゃる。昨今、南部の高校は統廃合とか…。現在はここの話はないですけども、庄原市にとって高校が大事なのだというアピールというか、計画の中に入れておかないと、今後もし広島県教育委員会の方針でいるんなことが出てきた場合に、後手後手の対応になるのではないかと思うのです。だから、令和8年度から高校に対して庄原市は、こうやって子供たちの将来のためにやっていくのだという、県との連携強化みたいな言葉があってもいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。答弁。
- 田部伸宏企画課長 これまでも、大学のことについては先ほどもお話しましたし、高校についても、各校と活性化協議会等を通じて意見交換をしたり、支援の補助金等も交付したりしております。おっしゃるように、あれは南部の話で中山間地には関係ないという、そんなのきなことは考えておりません。表現については教育委員会も含めて少し整理をさせてもらえればと思います。思いとすれば、そうした危機感は十分に認識しております。
- 福山権二委員長 宇山委員。
- 宇山茂之委員 県が運営しているので、庄原に高校がなくならないよう、しっかりした庄原市のスタンスをこの計画の中に入れていただきたいと思います。
- 福山権二委員長 松本委員。
- 松本みのり委員 達成を目指す指標について、累計と書いてあるものと、累計とは書いてないけれども累計ではないかというものが混ざっているので、累計のものはしっかり累計と書いていただきたいです。あともう2点、56ページのごみの総排出量なのですけれども、人口減が進んできている中で、市や市民の努力で減ったのか、人口減によるものかが分かりにくいので、1人当たりのキロ数なりが分かると助かるなという点。あともう1点が、77ページのグローバル人材の活躍の指標なのですけれども、英検3級以上相当の力を有する生徒の割合、中学3年生とあります。長期総合計画の委員さんからも、英検3級が最近資格としては強みがないので、余り意味のある指標ではないのではないかという御意見がありました。私もそのように感じますので、検討いただけたらなと思います。
- 福山権二委員長 課長。答弁。
- 田部伸宏企画課長 3点、いずれも承知をいたしましたので、少し検討したいと思います。
- 福山権二委員長 吉川委員。
- 吉川遂也委員 まず1点目、指標について調整中というところがまだ結構ありますが、これがいつ頃出てくるのかをお伺いしたいと思います。
- 福山権二委員長 答弁。課長。
- 田部伸宏企画課長 パブコメ等も含めて、最終的に整理をした段階でお示しをするようなスケジュールになると思います。直近で言うと、恐らく外部の審議会へ先に出すような形になるのかなと思います。1月中かなと思います。
- 福山権二委員長 吉川委員。
- 吉川遂也委員 第2期から第3期にかけて、達成を目指す指標というところが採用されているものか

ら落ちたものとか、いろいろ変化があると思います。中でも、特に比婆牛関係のものとかは2点あった指標が今回抜けているというところ等を含めて、目指すべき指標が農林業関係については少ないのではないかという指摘をしたいと思うのですが、落ちた理由、あるいはもう新規就農者等については目標を立てても達成する余地がないと諦めを見せるのか。比婆牛についても飼養頭数を延ばす余地がないと市民から見ると見えるのですが、落とした理由等があれば教えてください。

○福山権二委員長 部長。答弁。

○足羽幸宏企画振興部長 同時並行で第3期の農業振興計画を策定しておりまして、個別計画としては様々なKGI・KPIを設定して取組を進めていこうと考えております。今回、この長期総合計画に上げているKPIですけれども、直接的に施策の柱に効果が高いだらうというものをピックアップして上げております。委員からいただいた御意見を踏まえまして、KPIの設定については再度、担当課と調整、検討してみたいと思います。

○福山権二委員長 吉川委員。

○吉川遂也委員 81ページの行政経営の刷新のところ、施設管理経費の縮減率が新たにできていると調整中とあるのですが、これは公共施設の管理計画の床面積25%削減を生かしながら、今度は経費について見ていくという、新しい指標で取り組むという意味表示なのかなと思うのですが、そういうことで理解してよろしいですか。

○福山権二委員長 課長。答弁。

○田部伸宏企画課長 そのような意思表示であると捉えていただいて構いません。全てが調整中なので大変申し訳ないのですが、本来こうあるべきだと理解しております。面積は面積として持っている必要もあらうと思いますが、何のためにやるかという、財政運営の健全化にどれだけ資するかというところのほうが重要度は高いかなと思っております。

○福山権二委員長 吉川委員。

○吉川遂也委員 その縮減率の起点となる年度はどこになるのですか。

○福山権二委員長 答弁。

○田部伸宏企画課長 令和6年度がベースになると思いますが、そこを例えば何%に設定するかというのはまだ調整中です。

○福山権二委員長 他にありますか。青山委員。

○青山学委員 59ページの防犯・防災・減災のところ、消防団員の確保について、意見を言うわけではないのですけれども、総務省で女性消防団、学生団員、機能別団員が増えていると。重点的に取り組んできたこの3点が、やっとなら増えているという状態なので、庄原市も重点的に取り組むような文言を入れていただきたいと思うのです。計画にはあるけれども入っていないのか、それともまたこれは別なのか、聞かせていただきたいです。

○福山権二委員長 課長。答弁。

○田部伸宏企画課長 そうした視点はもちろん必要かと思っておりますので、表現については少し担当課と調整させていただければと思います。

○福山権二委員長 青山委員。

○青山学委員 それと、消防の分の設備の更新等も結構あるのですが、設備とあわせて装備を入れていただきたい。セットだと思っております。ぜひともそこも入れていただきたいと思います。これは意

見としてお願いします。続けて49ページの子どもと子育てについて。先ほど課長がおっしゃられたように、刺さるかどうかで言いますと、目指す姿の2段目、最善の利益に資するようということに関しては刺さることだと思うのです。これ全部見てもすごくいいことだなとなるのですが、その反面、誰がするのだろうという思いもあります。保育士だけにフューチャーしてしまいますと、保育士の企業説明会に来る人が0人だったという状況も踏まえて、今も不足になってきている状態なのではないかなと思います。職員の不足に関してのことが、保育士だけで言うてはいけないけれども、保育士で調べると一つもワードが出てこなかったのですが、働き手の不足についてどのように考えているのか教えていただきたいです。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 個別の人材不足に関わる対応は、ここだけではなくて全ての分野であろうかなと思います。それをどこまで書くかは、担当課とのやりとりの中で整理していきますが、表現について、再度そういう意見があったということはフィードバックして、庁内で検討したいと思います。

○福山権二委員長 青山委員。

○青山学委員 刺さるだけ、しっかり刺さるのだけれども、人がいないからできなかったとならないような形にしていきたいと思います。

○福山権二委員長 谷口委員。

○谷口隆明委員 市長が施政方針で新しい基盤産業等をつくると言われたのですが、その基盤産業というのは結局、この長期総合計画では何になるのか、改めてお聞きしたいと思います。

○福山権二委員長 答弁。

○田部伸宏企画課長 第一次産業の農林業と、第2次産業の工業の中に含まれてくると思います。

○福山権二委員長 谷口委員。

○谷口隆明委員 であるならば、先ほど市長のマニフェストと長期総合計画は違うと言われたのですが、やはり基盤産業を前面に出したものが無いと…。その中身についてももっと、例えば林業であれば先ほど自伐型林業と言いましたけれども、去年の政府の骨太方針にも多様な林家、小規模、それから自伐型林業と初めて出たのです。林野庁が今度自伐型林家に対する補助制度をつくるということで通知も出ているような時代なのです。庄原市が、林業が一番多いのであれば、せめて自伐型林業の言葉とか、木の駅プロジェクトとか、そういうものは入れて、庄原市は本当にそういう努力をしているのだという姿を見せないと、これでは余りにも寂しいと思います。基盤産業になるような勢いを見せてほしいと思うのです。意見になるかも分かりませんが、よろしくをお願いします。

○福山権二委員長 答弁ありますか。課長。

○田部伸宏企画課長 頂いた意見はフィードバックして、担当課と協議したいと思います。

○福山権二委員長 徳永委員。

○徳永泰臣委員 同じく、林業の件については木の駅にしても、もう3か所も4か所も引き続きやっておられる。自伐林家も進んできている中で、大型機械の生産性とか高性能機械導入とか、この2行だけで林業を済ますというのは絶対に私も納得できません。これがイコール市長の思いと思えるのです。取られると思うのです。その辺気をつけて、慎重に考えていただきたいと思っております。

○福山権二委員長 答弁。課長。

○田部伸宏企画課長 たくさんの指摘が出たということで整理をしたいと思います。

- 福山権二委員長 堀井委員。
- 堀井慎一郎委員 61 ページ、課題の2番目に、戦争体験、被爆の実相の承継を含めた恒久平和という課題があるのですが、施策に平和というワードが出てこないです。庄原市は非核平和都市宣言をしていますし、議会では平和推進条例もつくられています。また、最近の国際情勢をいうと戦争とか、武力行使、そういったことが心配されます。国においても非核3原則を見直していくといった発言もあり、この恒久平和という部分が非常に危うくなってきていると感じています。ぜひとも施策の中に、そのような取組について1本立てしていただけないかと思いますが、いかがでしょうか。
- 福山権二委員長 答弁。課長。
- 田部伸宏企画課長 表現については不足している部分もあるかなと思います。施策を立てるかどうかは検討の余地がありますけれども、分かりやすい表現で整理をしたいと思います。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 将来に希望が繋がっていく仕組みづくりということです。今の時代に企業誘致がなじむのかどうかは少し自信がないのですけれども、豊富な森林資源や水資源、それから酪農、農業、食品加工、あるいは比較的災害の少ないこの地域で、データセンターと申しますか、庄原市の強みである資源の付加価値をさらに高めるような企業誘致をするお考えはないのか。そういう企業誘致が、全く出ていないのです。その点について、もうしないのか。資源を生かして、企業誘致をして、希望が持てるような就業の場にしていく。一面ではそういったことも考えられる。その点についてはどうでしょうか。
- 田部伸宏企画課長 答弁。部長。
- 足羽幸宏企画振興部長 69 ページを御覧ください。施策領域④の産学官連携の中に、大学や産業界と連携しながら起業・創業、企業誘致を促していこうというところを記述しております。なかなか市だけの取組では進まないところもございますので、そうした記述にしているところです。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 柱立てで商工業がありますし、それから農林業がありますし、あるいは地域経済という項目があるのです。企業誘致といった場合は、そういう視点で捉えるほうがいいのではないかと私は思います。産学官連携というのは、大学の知識を地域の産業に生かしたり、あるいは地域の方が大学に頼っていろいろと研究開発をしてもらったり、というのが主なテーマになると思うのです。そう考えれば、もう少し産業分野のところへ企業誘致という記述が必要だと思えます。意見です。
- 田部伸宏企画課長 重々承知をしております。これまでもバイオマスであるとか、データセンターであるとかというのは、庁内でもいろいろと意見交換をしております。重大工業の工業団地の進出はなかなかハードルも高いと思いますが、65 ページの工業の振興の中に、新規進出企業や事業拡大云々という記述もございますので、そうした思いの中では進めていきたいと考えております。
- 福山権二委員長 近藤委員。
- 近藤久子委員 61 ページです。施策の(2)男女共同参画社会の実現、3行目、DV防止や困難女性に関する相談とありますが、困難女性とはどういう意味ですか。本来ならば、困難な問題を抱える女性なのです。記述の変更が必要ではないかと思いますが、いかがですか。
- 田部伸宏企画課長 検討いたします。
- 近藤久子委員 検討される余地はないと思います。正式名を書かれたらそれでいいと思うのです。困

難女性という書き方では、女性自身が困難な存在に受け取られませんか。

- 田部伸宏企画課長      それも含めて担当課としっかり意見調整します。
- 福山権二委員長      近藤委員。
- 近藤久子委員      53 ページ、施策の（3）医療の充実の1番下に、西城市民病院の記述があります。持続的かつ安定的な運営に取り組みますと書いてあります。今、西城市民病院を建て替えることについて、地元の方たちからもいろいろと意見が出ている中で、検討課題ではあると思うのです。持続的という意味合いをどう捉えればいいのか。
- 福山権二委員長      課長。答弁。
- 田部伸宏企画課長      これまで同様に、持続的に地域医療を守っていく施設として存続をさせていきたいという思いです。
- 近藤久子委員      条件が整わなければ持続的にはならないと思います。かなり老朽化した建物もありますし、医療従事者の確保が難しいということもこの前述に書いてありますその辺はどう捉えればいいのか。
- 福山権二委員長      答弁。課長。
- 田部伸宏企画課長      施設についてはまだ調査段階ですが、老朽化している事実については認識しております。今後、そうした動きについては予算なりで整理をしていきたいと思いますが、持続して残していきたいという思いについては、ここで記述をしていると御理解いただければと思います。
- 福山権二委員長      五島委員。
- 五島誠委員      担当課長にお伺いするのがいいのか、委員長にお伺いするのがいいのか分からないのですが、今日、市長が来られないのは何かあるのですか。
- 福山権二委員長      市長がこの場に出席をされないことについての説明を求めます。課長。
- 田部伸宏企画課長      担当課の説明で足りると思っております。
- 福山権二委員長      五島委員。
- 五島誠委員      先ほどのやりとりの中で、この長期総合計画はイコール市長のマニフェストではないと。それはそのとおりでと思うのですが、一方で本会議の質問の中では、市長の思いの具現化をこれで示すとおっしゃったわけです。となると、話の筋からいくと、私はどこかのタイミングで来られて御自分の言葉で説明をされたほうがいいのかなど感じました。また、様々な分野にわたって基本計画の質疑が出ました。市長が説明できない部分もあるかと思いますが、企画振興部企画課にこの質疑を全て任せると、先ほど来あるように担当課と協議をして云々という話になる。あるいは、市の方針はどうかと聞いたときに、企画課だけで分かる問題ではないではないですか。全体の大きな計画なので、そうしたことがしっかりと質疑の中で明らかにできるような委員会のしつらえと申しますか、説明員の方も含めて、そうしたこともぜひお願いしたいと思います。
- 福山権二委員長      答弁できますか。課長。
- 田部伸宏企画課長      少し答えに窮したところもありましたので、そこは大変失礼いたしました。基本的には、取りまとめ担当である企画課が説明をします。頂いた御意見をそこで全部打ち返せばいいのですが、担当課の思いもしっかり整理した上でお返しできたほうがいいのかということで、担当課と調整するという部分については、そうした猶予をいただければという気持ちでおります。市長の出席云々については、我々のところでしっかり受け止めて御説明をするということで御了解いただきたいと思

っております。市長の思いは、本会議なりでしっかりと表明をしていただくように考えております。

- 福山権二委員長　　時間が来ましたが、まだ質問がたくさんありますか。桜田委員。
- 桜田亮太委員　　八谷市長のカラーがという話があったのですけれども、長期総合計画というのは、仮に市長が代わられても大きく変わることはないものだと思っていました。基本計画はそもそも今の市長によって、大きく方向転換がされるといったことがあるのですか。
- 福山権二委員長　　答弁。
- 田部伸宏企画課長　　長期総合計画は、市長のカラーでどうこうするというものではないと思っております。ただ、それだけではなくて社会動向の変化とか、世の中の流れのスピード感等も考えますと、10年間、全くいじらずにそのまま行こうというのは、逆にナンセンスかなと思っています。この基本事項にも表記しておりますが、基本構想とかについては中期を見据えた形です。これについては大きく変革はないけれども、基本計画の部分については社会情勢によって、5年をめぐりに見直しをかけていこうと考えております。そのため、全体の計画は10年ですけれども、基本計画については5年目に見直す余地があると考えております。
- 福山権二委員長　　谷口委員。
- 谷口隆明委員　　62ページのダイバーシティ・インクルージョンですけれども、人権啓発事業の市民参加者数が現状で1,292人、中間目標が800人以上に下がって、到達目標も今より少ない1,000人以上となっています。目標の立て方として下がっていくのはどうなのかなど。もう1点、女性幹部の登用、そういう目標は立てられないのか。その2点をお伺いします。
- 福山権二委員　　答弁。
- 田部伸宏企画課長　　これについては担当課とやりとりする中でこういう目標になっているのですが、もう少し精査して誤解がないような表現にしたいと思います。またKPIの取捨選択については、ほかの施策も含めて総合的に検討したいと思います。
- 福山権二委員　　よろしいですか。それでは四つの項目について、今日で議論は終了します。実施計画については本会議の中で、議案で出ます。様々な調整をして、この委員会が提案したことについて、そのときには修正、加味されて出てくると思いますので、それは議案審議のときに審議をします。また、3年間の財政計画の基本的な方向は、3年目に実施計画の中で見直すということもありましたので、その中で議論を進めていくという取り扱いにしたいと思います。今日までの議論については、正副委員長が責任を持ってまとめていきますので、よろしくお願ひします。それでは今日の特別委員会をこれで終了します。ありがとうございました。

午後0時4分　　閉　　会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

第3期庄原市長期総合計画調査特別委員会

委員長